

# 1

## 「ちとせホルメンコーレンマーチ」が始まった経緯は？

《40歳代女性》



マーチの名から「ちとせホルメンコーレンマーチ」と命名されました。以来、駐日ノルウエー王国大使などが毎年のように千歳を訪れています。

**声** 毎年、2月11日に青葉公園などを会場に開催されている「ちとせホルメンコーレンマーチ」は、どのような経緯で始まったのですか？

その後、第10回大会を機に、大使から「この歩くスキー大会の盛り上がりをノルウエー王国との都市提携に結びつけてはどうか」との提案を受けて、コングスベルグ市を紹介していただき、昭和63年、コングスベルグ市において友好親善都市声明を発表しました。

**答** 今年で第39回を迎える「ちとせホルメンコーレンマーチ」は、昭和52年、市内の国際交流団体「千歳国際クラブ」が歩くスキーの普及を図るため「歩くスキーの集い」を開催したのが始まりです。

都市提携から25年が過ぎた今では、ノルウエー大使やコングスベルグ市長夫妻などが「ちとせホルメンコーレンマーチ」に参加したり、千歳市訪問団がコングスベルグ市を訪問するなど友好親善を深めています。

「歩くスキーの集い」は、昭和56年に、本場ノルウエーで開催されているホルメンコーレン

交流推進課国際交流係  
☎(24)0482

# 声のらん

「声のらん」は、主に「市長への手紙・ポスト」や「広報聴モニター」の声と、その答えをご紹介します。このほかに、皆さんからの一般的な質問などもご紹介いたしますので、疑問に思っていることなどを、お手紙などでお寄せください。ただし、他の市民の方にも参考になる内容を採用させていただくため、全てを掲載することはできません。また、質問の内容を確認する必要上、お手紙には必ず連絡先と名前をご記入ください。【〒066-8686 / 千歳市東雲町2丁目34 / 千歳市企画部広報広聴課 宛】

# 2

## 千歳市における「自主防災組織」の結成状況を教えて

《60歳代男性》

**声** 地震や自然災害などが発生したとき、被害をできるだけ少なくするために、隣近所での助け合いが重要だと思います。

北海道の自主防災組織の結成率は低いと聞きましたが、千歳市ではどうなのですか？

**答** 災害が起きたとき、隣近所で力を合わせ救助活動や火災の初期消火などを早急に行い、被害を最小限に食い止める必要があります。平成7年の阪神・淡路大震災を教訓に、地域住民が町内会やコミュニティ単位で結成する「自主防災組織」の重要性が見直されています。

市は、市民防災講座や防災訓練などを通じて、市民の皆さんに自主防災組織の必要性を理解していただき、自主防災会規約の作成支援や防災資機材の貸与など、自主防災組織の結成を支援しています。また、防災学習交流施設を活用して消火体験や救出体験など、自主防災組織が参加する実動訓練も積極的に行っていきます。

その効果として、千歳市の自主防災組織結成率は、平成16年に37.7%でしたが、平成26年には、70.2%となり全道平均の51.3%を上回っています。今後も町内会などに自主防災組織の結成を働きかけたり、自主防災組織が参加する訓練を実施するなど、自主防災組織結成の促進と育成に取り組んでいきます。

危機管理課防災・危機対策係  
☎(24)0144